

人生を拓く

12

川瀬 初枝さん(96) 1123区

1924(大正13)年、5歳の時に両親とともに富山県旧大沢村(現富山県中新川郡上市町)から西5号(当時)に入植しました。7人姉弟の長女で、第二尋常小学校を卒業後、実家を手伝いながら弟たちの子守りをする農家の働き者だったようです。

19歳の時、葬儀手伝いに行った親戚の家で、息子の嫁に―としゅうとの秀造さんに見初められたそうです。2カ月間、連日のように懇願に訪れ、その熱意に促されて2年後に結婚しました。敏正さん25歳、初枝さん21歳でした。二男二女を育て、しゅうと、しゅうとめを長く介護しました。

夫、敏正さんは2000(平成12)年、85歳で逝去し、今は13家族で孫11人、ひ孫11人の大家族。年3回、家にその賑わいが戻ります。中でも正月は一番の腕の見せどころ。富山県の郷土料理のひとつ、押しずしは、母、ゆきさん(82歳で逝去)から教わった懐かしいふるさとの記憶です。

1升(約1・8㍓)の白米を炊いて塩サバと鮭の2種を毎年準備します。「押しずしを食べたい」と毎年好評だそう。お雑煮も「ばあちゃんのお雑煮のつゆがおいしい」といつもうれしい反応が返ってきます。

年の瀬が押し詰まると、家族みんなに配

る1俵(60キログラム)もの正月用の餅つきもします。「家族ごとに名前を付けてついた餅を袋に入れるんだよ」と毎年大忙しの準備を欠かしません。



夏、初枝さんの家は写真甲子園に出場する高校生たちでにぎわうようになりました。沖縄浦添工業高校写真部は、2012(平成24)年から3年連続出場し、3年前の第19回大会で初枝さんを撮した組写真で優勝以来毎年元気な顔を見せてくれるように、「今年も来たよ」という笑顔が毎年楽しみになりました。

若い時から信仰心に篤く、何事も「お念仏のおかげ」と朝夕のお参りを欠かしません。「一人では生きられないの。大勢に生かされている、いつも感謝の気持ちでいるの」と穏やかな初枝さん、近く戻ってくる長男、秀之さん(72)の帰りを楽しみにしています。

俳句

しゃぼん玉真上に吹くと危険です
春の季語贅沢なほど押し寄せて
野も山も春色メイク始まりぬ
はしやぐ声のせて弾けるしゃぼん玉
大空のどこで遊ぶのシャボン玉
スイートピー鼓動おさえて初舞台
残花たわわに追善の終夜灯
出稼ぎの父さん恋しシャボン玉
雪間から夕日より濃き福寿草
割れまいとゆがみしふくれしゃぼん玉
日の色をなす境内に福寿草
真似っこが上手になってしゃぼん玉
シャボン玉息抜きこめて風に舞う
シャボン玉消ゆるまで見て吹きにけり
春うらら今日の私はシヨパン好き
この辺り芽を出すぎざしクロッカス
ふらここや一人ぼっちの遊園地
しゃぼん玉はじけて空の青になる

横田 則子	若田 久	高瀬 潤	石澤 清宏	松山 蓉子	三島 智	若田 郁	本田 咲	佐々木 りえ	山内 みゆ	長谷川 きみゑ	小林 ろば	高橋 公花	杉山 ひろのり	保科 なほ	徳光 吐苦	杉山 りつ	こばやし 星
-------	------	------	-------	-------	------	------	------	--------	-------	---------	-------	-------	---------	-------	-------	-------	--------

